

令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査



# かけがわの子どもたち



掛川市教育委員会

掛川市では、『教育大綱かけがわ』の中で、子どもたちの目指す姿の一つを「豊かな心や健やかな体に高めていくひと」とし、体力・たくましさの育成と健康教育に重点を置いています。

本年度実施した全国体力・運動能力、運動習慣等調査について、掛川市の集計結果をお知らせします。  
 全国平均・県平均を100として、指標値により示しました。



## 実技に関する調査結果



### 【小学校5年男子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	98	98	96	101	109	101	98	104	100
県比較	101	100	101	101	105	101	98	109	101

### 【小学校5年女子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	98	97	95	101	107	101	99	105	100
県比較	99	101	99	100	102	101	98	104	101

### 【中学校2年男子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	96	102	102	104	103	101	101	104	101
県比較	97	101	100	103	100	101	100	103	99

### 【中学校2年女子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	98	103	102	104	104	102	104	105	103
県比較	98	102	101	102	101	101	101	101	100

※持久走と50m走については、タイムの速い方が良い結果であるため、市平均値を100として計算しました。

## 調査結果全体から見えてきたこと

- 反復横跳び、シャトルラン、持久走、50メートル走、ボール投げにおいて、小5・中2の男女すべてで全国及び県の平均を上回っており、掛川市の子どもたちの敏捷性、全身持久力、疾走能力、投球能力は全体的に見て高い。
  - 「上体起こし」において、平成30年度より（小5男子以外）、県の平均に届いていなかったが、小5・中2の男女すべてで県の平均を上回っており、掛川市の子どもたちの筋持久力は、全体的に見て高まっている。
  - 児童・生徒に対する質問紙調査では、「中学校に進んだら（中学校を卒業した後）、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う」と答えた児童・生徒の割合が、小5、中2の男女すべてで全国及び県を上回っている。掛川市の子どもたちは、生涯を通じて運動やスポーツへ関わっていかうとする意識が高まっていると考えられる。
  - 「体育（保健体育）の授業が楽しい・やや楽しい」と答えた児童・生徒の割合が、小5、中2の男女すべてで全国及び県を上回っている。掛川市では、子どもたちにとって体育（保健体育）の授業が充実したものになっている。
  - 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と答えた児童・生徒の割合は、小5、中2の男女すべてで全国及び県を上回っている。掛川市の子どもたちは、全体的に見て、達成感を味わったことがあり、挑戦する気持ちが高いと考えられる。
  - 「睡眠を8時間以上とっている」と答えた児童・生徒の割合は、小5、中2の男女すべてで全国及び県を上回っている。掛川市の子どもたちは、全体的に見て規則正しい生活習慣ができていると考えられる。
- △「握力」において、小5と中2の男女ともに全国の平均値に届かなかった。

## 体力の高い子 ポイント6

「実技に関する調査」と「質問紙調査」の相関関係を分析すると、次のような子どもの体力合計点が高い傾向にある。

- ① 体育・保健体育の授業で、自分の動きの質の向上を実感している。
- ② 失敗を恐れなくて挑戦している。
- ③ 「運動が好き。」「運動をするのは大切である。」と思っている。
- ④ 放課後や学校が休みの日にも運動部、スポーツクラブ以外の場で運動やスポーツをしている。
- ⑤ 体育・保健体育の授業を除き、1週間あたりの運動時間が420分以上である。
- ⑥ 中学校に進んだら（中学校を卒業した後）、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思っている。



## 今後に向けて

新型コロナウイルスの影響により、学校活動が制限され、全国的に児童生徒の運動時間が減少しています。そのような中、掛川市では、体育の授業において楽しく、たくさん運動をしている児童生徒が多いという結果となりました。今後は、幼児教育で進めているアクティブチャイルドプログラムに加えて、市教育センター主催研修「リズム表現と遊び」等、遊びで育つ運動等の研修の充実や、「かけがわ型育ちと学びのジョイントブック」を活用し、遊びを通して育まれた幼児期の育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を手掛かりに、幼児教育と学校教育が連携して、家庭を巻き込みながら、運動好きの子どもを育てるよう取り組んでいきます。

また、コロナ禍でも運動に親しむ活動の工夫や、ICTを活用した児童生徒の体力向上策等、地域の特色や子どもたちのニーズに合わせた効果的な取り組みを推進し、体力・たくましさの育成や健康教育に力を注いでいきます。